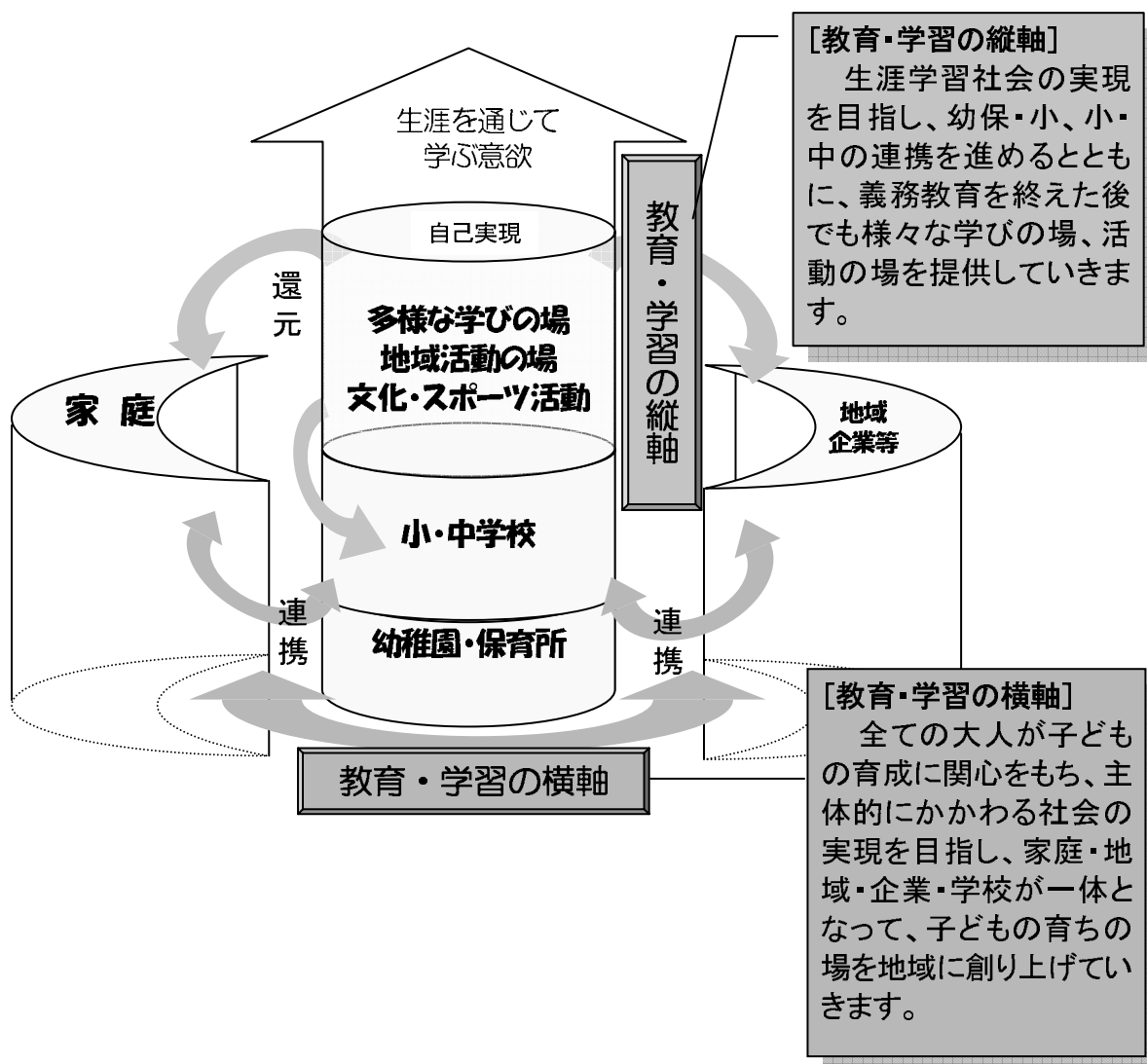
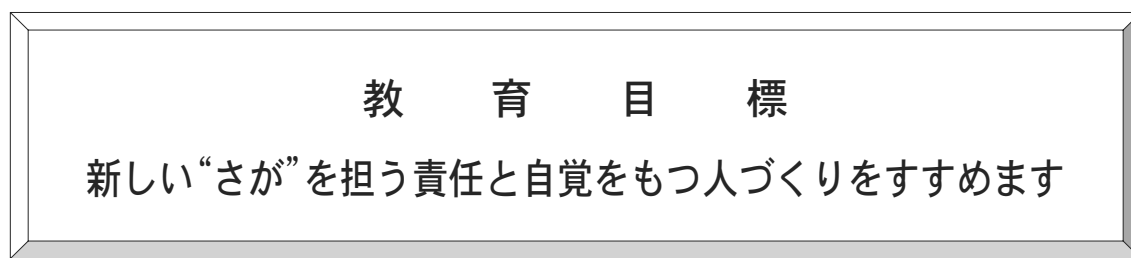


教育委員会

1. 佐賀市教育基本計画

佐賀市ならではの教育施策を進めていくためには、社会情勢の変化に迅速に対応していくことはもちろんのこと、0歳から義務教育修了時の15歳までの「子どもの育ち」を念頭に入れた中長期的な視点で教育の方向性を定める必要があります。

本市教育委員会においては、佐賀市における中期的（5年間）な教育基本計画をH17年度に、中間年であるH21年度に後期計画を策定し、この計画に基づき家庭・学校・地域・行政が一体となって取り組んでいます。



2. 教育委員

役職名	氏名	職業	委員就任年月日	委員現任期
委員長	北島 恭一	会社役員	H5. 10. 1	H17. 11. 5 H21. 11. 4
委員 (委員長職務代理者)	古賀 靖之	大学教授	H12. 10. 1	H20. 11. 5 H24. 11. 4
委員	山下 恭子	短大准教授	H17. 11. 5	H19. 11. 5 H23. 11. 4
委員	山本 辰郎	自営業	H18. 11. 5	H18. 11. 5 H22. 11. 4
委員	福島 和代	弁護士	H20. 11. 5	H20. 11. 5 H24. 11. 4
教育長	田部井 洋文	公務員	H16. 10. 2	H17. 11. 5 H21. 11. 4

*委員任期4年・委員長任期1年で再選されることができる。

3. 就学前からの教育の充実

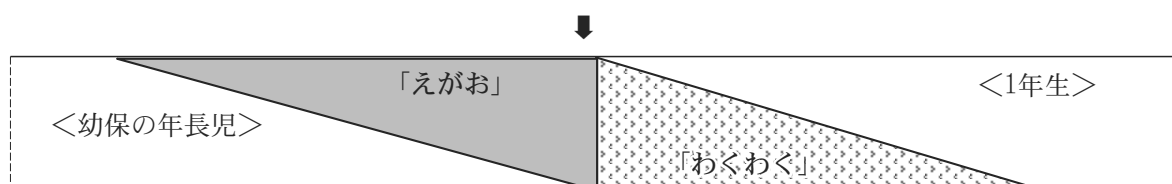
(1) 幼児教育の充実 4-2

① 幼保小の接続期における教育推進

幼稚園・保育所から小学校への接続期の教育充実のため、接続期のプログラム「えがお」（幼稚園・保育所用）、「わくわく」（小学校用）の実施を推進し、その成果の検討・検証を行い、子どもと保護者の小学校入学に対する不安解消や社会現象となっている「小1プロブレム」の解消を図る。

幼保小の「育ちと学び」の連続性について（イメージ図）

<卒園・入学>



○ 「えがお」について

幼稚園・保育所では5歳児の12月から「えがお」をもとに、子どもたちの育ちの状況を確認し、卒園までの4ヶ月間で遊びや生活を通して、さらに育ちを伸ばしていくようにする。

その際、「えがお」に紹介した遊びを取り入れ、幼稚園教育要領・保育所保育指針の5領域を意識しながら育てていくことで、小学校への就学の準備ができ、なめらかな接続ができるようになると思われる。

「えがお」の柱として、次の5つを大切にしているようにしている。

- 遊びのきっかけ・展開につながる「環境づくり」を大切に！
- 子どもたちの「主体的な活動」を大切に！
- 計画性・柔軟性のある「援助」を大切に！
- 「見る・聴く・話す力」を大切に！
- 「協同的な遊び」を大切に！

○ 「わくわく」について

幼稚園・保育所5歳児における「えがお」を受け、小学校での学習・生活へとなめらかに
つなぐためのプログラムで、1年生5月末までの2ヶ月間程度の実施とする。

子どもが、体験・活動を通して意欲的に学習できるように、4つの柱を意識し、内容と指
導方法の検討を加え、身に付けさせたい学習習慣を織り込んだ展開を考え、「わくわく」と
呼ぶ。

「わくわく」の柱として、次の4つを大切にし、幼保からの育ちや学びを生かした指導を
する。

- 「集まる場」を組み込んだ学習形態
- 「遊びの要素」を取り入れた学習活動
- 「基本的な学習習慣」を組み込んだ学習内容
- 「柔軟な学習時間」の設定

② 幼稚園特別支援教育の実施

障がいをもった児童の受入れを実施している市内の私立幼稚園に対し、その経費の一部を補助
することにより、幼稚園への就園の促進に努めていく。

	18年度	19年度	20年度
受入人数	29人	32人	39人
受入園	16園	15園	15園
実績額	5,570千円	5,556千円	7,040千円

③ 幼保小連携会議の充実

幼保小の相互理解を図るために、全小学校区で、年間3回以上の連携会議を開催し、その充実
を目指す。

特に、モデル校区を指定し、幼保小の連携や交流活動のあり方について実践事例等の提案をす
る。

○ 連携モデル校区

川上小学校、川上幼稚園、川上保育園

○ 食育連携モデル校区

循誘小学校、錦華幼稚園

④ 幼保の食育指導の充実

健康な生活の基本として「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うために、幼稚園・保育
所での食育指導に取り組みます。管理栄養士を配置し、園・所や園児・保護者への食育指導を行っ
たり、食育指導計画の作成の助言を行う。

⑤ 幼小一貫教育の研究

幼小の連続性を生かした就学前教育と小学校教育のあり方を探って、9年間の見通しを持った
保育・教育を進めるために、幼小一貫教育の研究をする。

○研究指定：本庄小学校・本庄幼稚園

○実施期間：平成20～21年度（2年間）

○期待される成果として

・幼稚園・小学校の9年間で育てていく子どもの学びの姿を提案できる。

・幼稚園・小学校の連続性を生かした新しい教育プログラムが作成できる。等

本研究の成果については、研究発表会で市内の幼稚園・保育所・小学校の関係者へ伝え、それぞれの保育や教育に生かしていく。

⑥ 就学前児童特別支援教育の充実

特別な支援を必要とする乳幼児について、在籍する幼稚園・保育所等の教諭・保育士や保護者に対して、個に応じた特別支援教育（保育）のあり方を助言、指導することにより、乳幼児がその発達段階に応じた適切な保育を受けることのできる環境を構築する。

また、小学校の特別支援担当等との連携・情報共有を図ることにより、円滑な就学を支援する。

(2) 義務教育の充実 4-2

① 地域人材活用の推進

各小中学校では、学校の独自性や地域の特色を生かしながら、これまで以上に各教科や道徳、総合的な学習の時間、学校行事、地域と連携した活動等において、地域の人材を活用した教育活動に取り組んでおり、教育委員会では、これを支援している。

② キャリア教育の推進

自分の夢や生き方についての指導を道徳や学級活動、総合的な学習の時間の中に位置付け、自らの将来について目を向ける機会を通して、「夢に向かって努力する」「自分らしい生き方を実現する」態度を、意図的・計画的に指導している。

キャリア教育プログラムとして、小学生が地元商店街等で商売を体験する「キッズマーケット」、佐賀市を中心に活躍する職業人に話を聞き将来の夢や自分の生き方を考えさせる「職業人にインタビュー」、中学生がいろいろな職場で活動する「職場体験学習」を核とした授業や活動を実施し、地域社会と連携・協働することによって、職業に関する知識や技能、望ましい職業観や勤労観を身に付け、主体的に生きる態度を育てていく。

H21年度予定	キ ッ ズ マ ー ト	勸興小、循誘小、神野小
	3～5日間職場体験	市立全中学校

※職業人インタビューは複数校で実施

③ 環境教育の推進

小中学校における環境教育を推進するために、各学校の環境教育の情報交換を支援する。H21年度は、環境教育の広がりを進めるため、旧町村を含めた5校（小学校2校、中学校3校）を実践協力校に指定し、その活用を推進する。

④ 学校版環境 I S O の取り組み

児童生徒と教職員が環境について考え、環境保全を実践し、環境にやさしい学校マネジメントシステムを目指す取り組みを行う。

H14年度に佐賀市と佐賀市教育委員会が設けた「学校版環境 I S O 制度」により、各学校が独自に作成した実行計画をもとに取り組む。

⑤ 外国語活動等国際理解活動推進事業

国際理解教育の一環として、小学校高学年での外国語活動を行うことにより、コミュニケーション能力の育成と異文化・自文化理解を図る。

本年度は、教材の活用と評価のあり方についての実践研究校を1校指定し、年間計画に基づいた外国語活動等の授業を行い、その成果を各小学校の授業に活用していく。

⑥ A L T の活用推進

中学生の英会話能力の向上のため、A L T（外国語指導助手）を中学校へ配置している。また、子どもの英語活動への興味・関心を高めるために、小学校及び市立幼稚園へA L Tを派遣している。

⑦ 早稲田・佐賀21世紀子どもプロジェクト

早稲田大学との連携事業「早稲田・佐賀21世紀子どもプロジェクト」で、子ども・教職員出前講座に加え、大隈重信をテーマにした子どものスピーチコンテストを開催し、郷土のよさを見直す機会を作る。

⑧ スクールカウンセラー・佐賀県スクールカウンセラーの活用

すべての中学校区に臨床心理士や大学の教授、または、豊富な教育相談の経験を有するスクールカウンセラー（県配置）及び佐賀県スクールカウンセラー（市配置：県補助）を配置し、児童生徒や保護者の教育相談に応じている。また、校内研修の機会などを通じて、講話・演習等を依頼し、教師のカウンセリング能力の向上に努めている。

⑨ 不登校対策事業の推進

不登校の児童生徒の家庭に「サポート相談員」が出向き、個別に指導・相談を行うなど積極的・継続的に働きかけを行い、学校への復帰支援を進めている。心理的・情緒的要因、怠学傾向（非行を除く）等により登校できない状態にある児童生徒に対して、個別や小集団での相談・指導を行い、自立を促しながら集団生活への適応力を育み、学校への復帰を目指している。

また、「心の教育」の充実のため、不登校、いじめ、無気力、怠学等の問題を抱える学校に対して、適切な指導助言のあり方や、具体的・即時的な指導方法の研究と実践を図る。

【サポート相談員 配置状況】	年 度	指導員数
	H21年度	6人

⑩ 不登校児童生徒の学習支援（IT等の活用）

引きこもりの児童生徒の家庭と適応指導教室「くすの実」をインターネットで結び、学習支援をきっかけとして家庭訪問による学習指導を行う学習ボランティアを派遣し、学校復帰を支援する。

H21年度IT事業学習指導員 配置状況	IT学習指導員数	学習ボランティア指導員数
	1人	3人

⑪ 学習支援員の活用推進

不登校傾向にある児童の相談相手や悩みのある児童の学校生活を支援するために、学習支援員を配置している。

H21年度支援員 配置状況	学習支援員数
	14人

⑫ 特別支援教育推進事業

心身に障がいのある児童生徒の学校生活や学習を保障するため、生活指導員を配置している。

平成19年度から嘱託化し、配置先を1校に限定するのではなく、児童生徒の状況に応じて週1～5日配置し、希望のあるすべての学校で支援している。また、校外活動でも支援ができるようにしている。

また、教職員の特別支援教育への理解と対応のあり方を向上させるため、特別支援教育コーディネーター研修会を開催している。

H15、16年度に特別支援教育モデル地区として指定を受け、各学校においては、特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会を立ち上げ、個々の児童生徒への組織的な対応をするとともに、発達障がいの理解と対応のための研修を実施している。

さらに、養護学校や専門機関からの巡回相談や専門家の招聘など、外部との連携を行っている。

H21年度は車椅子用階段昇降機を購入し、車椅子を使用している児童の移動支援を行う。

H21年度指導員 配置状況	生活指導員数
	34人

⑬ 支援指導員の派遣

様々な理由で教育活動に支障をきたしている教員に対して、支援指導員を派遣し児童生徒の指導の補助にあたることで、教育環境を公平に保障し、児童生徒一人一人の個性や能力を最大限に伸ばすことを目指す。

(3) 学校経営の充実 4-2

① 学校経営方針の明確化と学校運営の改善

基礎学力の定着やいじめ、不登校への対応、また、個性を生かした特色ある開かれた学校づくりを推進するため、各学校では、教育目標を分かりやすく構造化するとともに、より具体化した教育計画の策定に努める。

教育目標を具現化するために、各学校では、学校運営組織の見直しに取り組み、組織としての機能の充実に努める。

各小中学校がどのような教育内容に力を入れ、どう取り組もうとしているのかなど、学校経営方針や教育活動を保護者や地域の方々に十分に理解していただくために、平成14年度から学校毎にパンフレットを作成し、配布している。

② 到達度等調査研究事業

小学校3年生の全児童を対象に、「基礎基本到達度診断調査」を国語と算数の2教科で行い市内の小学生の基礎基本の到達状況を判断する資料としていく。調査結果は、それぞれの学校に戻し、児童への指導や教師の指導方法改善に生かすとともに、佐賀市の調査結果として、分析・改善点についてホームページに公開している。

③ 教育委員会マネジメント事業

教育委員会が、教育行政のリーダーシップをとるための体制づくりを行う。また、教育行政への理解と関心を高めるために教育情報の提供の充実に図っていく。

④ 小中学校のマネジメント支援

児童・生徒が充実した学校生活をおくることができるように、各学校の教育目標の特色に応じた教育活動を実施する。また、保護者や地域住民の意見を積極的に取り入れ開かれた学校づくりを目指し、各学校の独自性を高める。

⑤ 学校評議員の活用

学校が保護者や地域住民の信頼に応え、地域と連携協力して児童生徒の健やかな成長を図るため、全学校に学校評議員を委嘱している。校長は、学校運営に係わって学校評議員に広く意見を求めるようにしている。また、学校評議員制度の充実に図るため、学校評議員や校長等を対象とした研修会を開催している。

⑥ 学校評価システムの充実

校長、教職員による自己評価に加えて、児童生徒、保護者、地域住民、学校評議員等による学校関係者評価を全校で実施し、信頼される学校づくりを目指す。また、H20年度から「佐賀市版学校第三者評価」の検討を始めている。

⑦ 教育委員会の評価制度（第三者評価）の確立

教育政策について市民アンケートを実施し、教育委員会の活動状況及び事務事業の第三者評価を行い、市民の意見を教育政策に反映させるとともに、市民への説明責任を果たしていく。

⑧ 学校事務改善事業

H16年度に作成した学校事務改善の方向性に沿って、教員の事務負担軽減や学校経営管理時間を創出し、教育の質の充実に図る。また、平成20年度からは、事務の共同実施を行うことで学校事務の平準化を図るとともに効率化に務め、学校経営管理を円滑に行い、積極的な情報発信を行うことで地域との連携に役立てる。

⑨ 教科等研究会研究委託事業

教職員の実践的指導力の向上のため、教科等研究会各部会での研究を推進し、指導方法の改善・充実に努める。

⑩ 研究指定校委嘱事業

計画的に学校への研究委嘱を行い、教育の今日的課題の解決に向けて努める。

⑪ 教職員研修会支援事業

各学校の校内研究を充実させるため、研修費や指導主事派遣などにより支援を行う。また、教職員の指導力向上や指導方法の工夫改善につなげるため、教育研究所主催の教職員を対象とした研修会を行い、教職に対する熱意と教育の専門家としての確かな力量を培い、学校の活性化を目指す。

さらに、教職員の自主的な研修グループの活動を支援するため、研修費の一部助成を行う。

⑫ 佐賀市教育研究所の運営

佐賀市が抱える様々な教育課題の解決のため、教育研究所の機能強化を行っている。教職員の研修の充実、教職員向けデータベースの構築、さらに、教職員の研究意欲の高揚及び教育活動の活性化を図るため、個人やグループによる研究及び教材・教具の創作への応募を奨励・支援している。

⑬ 教育委員と語る会開催事業

市民と教育委員が直接対話する機会を設け、市民の意見を広く求め相互理解を深めるため、各中学校校区単位で開催している。

【実施校区】

平成20年度	城南中、昭栄中、芙蓉校、成章中
--------	-----------------

⑭ 学校ミーティング開催事業

教育長と教育現場職員の対話の機会をつくり、学校現場教職員の意見を広く求め、学校と教育委員会の相互理解を深めていくことを目的とした「学校・保育所（幼稚園）ミーティング」を開催している。学校は中学校校区単位で行っている。

【H21年度実施予定校】

校 区	対 象 校
成 章 保 育 所	成章保育所
東 与 賀 中 学 校 区	東与賀小、東与賀中
成 章 中 学 校 区	神野小、勸興小、成章中
城 北 中 学 校 区	高木瀬小、若楠小、城北中
富 士 中 学 校 区	富士小、富士南小、富士中

⑮ 学校フリー参観デーの開催

市内各小中学校において、授業や給食など教育活動の参観を児童生徒の保護者だけでなく広く市民にも公開し、開かれた学校づくりの一環として、また、佐賀市の教育に対する理解促進のために実施している。

H 20 年 度 参 観 者 実 績	第 1 回 目 (6 月 1 日)	第 2 回 目 (9 / 3 0 ~ 1 2 / 1 0)
	22,707人	14,734人

⑯ 特色ある学校運営推進事業

城南校区コミュニティスクール推進事業：城南中、北川副小、赤松小

赤松小学校をコミュニティ・スクールに認定し3年目になり、更に学校運営協議会を充実させる。

赤松コミュニティ・スクールの成果を拡大していくため、城南中学校区2校（城南中、北川副小）で学校ボランティア組織の構築と運用を進め、平成21年度に両校でコミュニティ・スクールの正式指定を行なう。

校舎隣接型 小中一貫校の研究（小中一貫校思斉校プラン）

地域の特色と小・中学校が隣接している環境を生かしながら、小中9年間の学びの連続性を基本的な形としたカリキュラム編成により、児童生徒一人ひとりのよさを伸ばし、生徒指導の充実を図り、学力向上、豊かな心の醸成など特色ある教育を推進する。

⑰ 生徒会活性化事業

佐賀市教科等特別部会との協働で、中学校リーダー研修会を年2回開催し、子どものリーダー性を伸ばすとともに、生徒会活動の一環として「中学校パワーアップ・プラン事業」を行い、生徒自らが企画・立案・運営し、生徒会活動・学校・地域の活性化を図る。

⑱ 学校ホームページの充実

特色ある学校づくりを進めて、教育内容や学校の様子を外部に知らせるため、その手段のひとつである学校のホームページを充実させる。そのため、学校でホームページの更新が活発にできるよう教職員に研修を行っている。

⑲ 学校保健の充実

児童生徒の健康状況を把握し、学校・家庭・学校医等が連携を図りながら、心身ともに健康な児童生徒を育成するために、次のような事業を実施している。

- ・保健体育科の時間を中核にししながら、特別活動の学級活動や学校行事をはじめ総合的な学習の時間など、学校教育活動全体の中における健康に関する教育への取組
- ・学校保健安全法に基づく健康診断の適正な実施と事後措置の徹底
- ・学校保健関係団体（医師会、歯科医師会、薬剤師会、学校保健会）との連携

⑳ フッ素洗口によるむし歯予防

フッ素洗口によって歯の歯質を強化してむし歯の予防を行う。また、フッ素洗口を通して、児童が自分の口腔内の状態に関心を持つとともに、むし歯になりやすい小学生の時期にむし歯にな

りにくい状態を保たせることで、健康な歯で、健康な食生活を送る児童を育成する。

⑳ 学校情報携帯メールの配信

通学途中の児童生徒の犯罪被害や災害被害に関する緊急情報を、保護者や学校関係者に発信し、情報を共有することによって防犯罪・災害に対する家庭・学校・地域の連携推進を図り、児童生徒の安全確保に役立てる。

㉑ 学校安全の推進

事故の要因となる学校環境や児童生徒の学校生活等における危険を早期に発見し、速やかに除去するとともに、交通事故や自然災害が発生した場合には、適切な応急手当、安全措置ができる体制を確立し、児童生徒の安全確保を図るため、次のような事業を実施している。

- ・各学校の組織の確立と学校安全担当者研修会等による安全教育及び安全管理の徹底
- ・通学路危険箇所調査の実施、それに基づく警察署や道路管理者への依頼による通学路の整備
- ・各学校での交通安全教室、防犯教室等による交通安全教育や防犯指導の徹底
- ・学校管理下における事故者等への日本スポーツ振興センター共済給付事業及び佐賀市学校災害補償事業（全国市長会学校災害賠償補償保険給付事業）の実施

(4) 教育機会の均等化 4-2

① 就学援助費補助

経済的理由により就学困難な児童生徒の保護者へ、学用品費や給食費等の一部を援助する。

年 度	認 定 者	事 業 費
H20年度	2,708人	165,162千円

② 特別支援教育就学奨励費

特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、その負担能力に応じて学用品費、修学旅行費、給食費等を補助する。

年 度	認 定 者	事 業 費
H20年度	127人	4,009千円

③ 佐賀市奨学金

経済的な理由により就学困難な高校生に対し、奨学金を給付し、有用な人材を育成する。

年 度	認 定 者	事 業 費
H20年度	79人	9,085千円

④ 高等学校生徒通学費補助

通学が困難な地域に居住する子どもが高等学校又は高等専門学校に就学したときに要するバス代等の一部を助成する。

旧富士町と旧三瀬村は制度を引き継ぎ、平成19年度からは新たに佐賀駅バスセンターから居住地のバス停まで12kmを超える場合も対象とした。

年 度	支 給 人 数	事 業 費
H20年度	151人	15,713千円

⑤ 通学費補助

山間部（大和町、富士町）の遠距離通学をする児童生徒の、円滑な就学を促すため、通学費（路線バス定期代等）の購入補助をする。

年 度	認 定 者	事 業 費
H20年度	122人	9,892千円

⑥ 通学区域制度の弾力化

本市では、在学中における住所の変更や心身上事由など「相当と認められる理由」がある場合、通学区域の弾力的な取扱い（就学校の変更）を認めている。

さらに平成18年度からは、新小学1年を対象に居住している小学校及び隣接している小学校から1校を選べる隣接校の選択制、市内のどこからでも選択できる特認校制を実施するなど、保護者のニーズに答える学校選択制を導入している。

隣接校選択制……市内全小学校

特認校制……………小中一貫校芙蓉校(小)、松梅小、富士南小、富士小、小中一貫校北山校(小)、北山東部小、三瀬小

(5) 安全な給食の提供と食育の充実 4 - 2

① 学校給食維持管理事業

学校給食用食器として使用する椀と皿は、旧佐賀市ではH13年度に切り替えを完了した。H15年度には、デザート用の小スプーンを導入し、献立に応じた食器具を利用するとともに、デザート用付属サジの使用を抑えることにより学校版環境ISOへの取組にもつなげている。また、H17年度からは箸の正しい持ち方ができるように低学年（1～3年生）児童用の箸を導入した。今後は、合併した旧町村も含めて整備を進め、取り組みを推進する。

② 食に関する教育指導の充実

給食の時間だけでなく、特別活動の学級活動や学校行事をはじめ、各教科、道徳、総合的な学習の時間等で、食に関する教育を積極的に行っていく。

H13年度に「食に関する教育指導の手びき」を作成し、平成18年度に改訂するとともに嘱託栄養職員の配置をすすめ、食に関する教育の充実を図る。

また、児童の健康状態や栄養摂取量を把握するため食事状況調査を市内7校の5年生に実施している。

③ 学校給食における安全性の確保

H13年4月から国内産小麦を使用したパンを給食に導入している。遺伝子組み換え大豆を原料にしない本醸造醤油「元気」を県味噌醤油醸造協同組合との共同で開発し、学校給食に使用して

いる。

遺伝子組み換え食品については、食材納入業者の協力を得ながら、長期的な安全性が確認されるまでは、使用しない方向で取り組んでいる。

食肉については、県内産で生産履歴の明確なものをできる限り使用し、ハムやベーコンなどの加工品もJAS規格製品、もしくは県内産の材料を使用して製造されたものを使用している。

④ 学校給食食材の地場産品導入による食育の推進

学校給食にふるさとの新鮮な地場産品を導入し、それを食することを通して、生産者と子どもたちとの信頼関係が生まれ、農薬の影響がない安全な食材の生産や郷土の環境を守る大切さが子どもたちの中に育つことが期待される。

佐賀市の子どもたちが学校給食で食べる米穀については、全て県産米を使用し、その内の大部分を佐賀市産米（ヒノヒカリ、夢しずく等）を使用している。

また、野菜についても、地元で収穫された安全で新鮮なものを使用するよう努めている。

⑤ 学校給食の一部民間委託事業

調理員の適正配置と学校給食の運営体制の効率化を図るため、学校給食の一部（調理業務と洗浄にかかる業務）民間委託を平成15年度から本格実施に移行し、順次、委託校を拡大していく。

平成21年4月現在、9校で一部民間委託を実施している。

(6) 教育環境の充実 4 - 2

① 小中学校の施設改修及び学校建設

各校の実状に応じて、校舎、屋内運動場、プール等の改修工事及び建替えなどを行うことにより、施設の延命化を図り、また、児童・生徒、教職員や利用者の安全確保を図る。

② 小・中学校児童生徒用図書整備

学校図書館の児童生徒用の図書整備を進め、読書指導の活性化はもとより、学校の教育課程の多様な展開に寄与するとともに、児童生徒が自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応する能力を育て、学習情報センターとしての機能充実を目指す。

③ 学校図書館資源共有事業

佐賀市内54校の学校図書館蔵書をデータベース化するとともに市立図書館とのネットワークを構築し、学校間及び市立図書館の図書資源の共同利用化を推進していく。

④ 小・中学校教育用情報機器の更新・整備

平成9年度から、IT社会に対応する児童生徒を育成するため、コンピューターに関する知識と操作能力の習得や、各教科教育の支援となるよう、教育用コンピューターを小・中学校に整備・更新している。

1人1台の環境で学習できるよう、中学校では当初から、小学校では平成16年度から、順次拡大して整備をしている。

⑤ 小中学校への高速インターネット回線整備状況

回線種別	小 学 校	中 学 校
光ファイバー (11校)	西与賀、嘉瀬、兵庫、本庄、中川副、南川副、西川副、東与賀	城南、昭栄、東与賀
CATV (17校)	勸興、循誘、日新、赤松、神野、巨勢、高木瀬、北川副、鍋島、新栄、若楠、開成	成章、城東、城西、城北、鍋島
ADSL (18校)	金立、久保泉、芙蓉、諸富北、諸富南、春日、川上、春日北、三瀬、大詫間、思斉	金泉、芙蓉、諸富、大和、三瀬、川副、思斉
ISDN (8校)	松梅、富士南、富士、北山、北山東部	松梅、富士、北山

○児童生徒数、学級数一覧

(小 学 校)

平成21年5月1日現在

学校名	区分 学年	普 通 学 級							特別支援学級	合 計
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	小計		
勸 興	児童数	52	52	43	55	53	48	303	10	313
	学級数	2	2	2	2	2	2	12	3	15
循 誘	児童数	66	72	106	78	84	72	478	10	488
	学級数	2	3	3	2	3	2	15	2	17
日 新	児童数	82	86	100	93	104	93	558	5	563
	学級数	3	3	3	3	3	3	18	1	19
赤 松	児童数	97	101	96	92	84	99	569	14	583
	学級数	3	3	3	3	3	3	18	3	21
神 野	児童数	128	110	136	96	132	125	727	6	733
	学級数	4	4	4	3	4	4	23	2	25
西与賀	児童数	40	54	49	52	43	55	293	3	296
	学級数	2	2	2	2	2	2	12	1	13
嘉 瀬	児童数	35	33	45	30	41	39	223	6	229
	学級数	1	1	2	1	2	1	8	2	10
巨 勢	児童数	44	30	39	49	40	47	249	3	252
	学級数	2	1	1	2	1	2	9	1	10
兵 庫	児童数	112	96	122	120	113	118	681	7	688
	学級数	3	3	4	3	3	3	19	2	21
高木瀬	児童数	153	127	117	158	104	140	799	6	805
	学級数	4	4	3	4	3	4	22	1	23
北川副	児童数	82	97	111	105	104	92	591	5	596
	学級数	3	3	3	3	3	3	18	1	19
本 庄	児童数	77	83	82	110	82	107	541	3	544
	学級数	3	3	3	3	3	3	18	1	19
鍋 島	児童数	135	154	158	151	160	146	904	12	916
	学級数	4	5	4	4	4	4	25	3	28
金 立	児童数	37	47	38	40	28	47	237	6	243
	学級数	2	2	1	1	1	2	9	1	10
久保泉	児童数	26	28	24	35	39	31	183	4	187
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	7
芙 蓉	児童数	20	14	21	12	20	23	110	1	111
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	7
新 栄	児童数	91	74	87	87	76	84	499	7	506
	学級数	3	3	3	3	2	3	17	2	19
若 楠	児童数	86	66	86	83	100	95	557	7	564
	学級数	3	2	3	3	3	3	18	2	20
開 成	児童数	102	66	111	94	115	103	635	6	641
	学級数	3	2	3	3	3	3	19	2	21
諸富北	児童数	51	54	46	54	51	62	318	3	321
	学級数	2	2	2	2	2	2	12	1	13
諸富南	児童数	45	43	45	56	56	51	296	6	302
	学級数	2	2	2	2	2	2	12	2	14
春 日	児童数	101	103	87	96	80	85	552	9	561
	学級数	3	3	3	3	2	3	17	2	19
川 上	児童数	45	46	69	53	52	73	338	2	340
	学級数	2	2	2	2	2	2	12	1	13
松 梅	児童数	8	5	8	6	7	9	43	4	47
	学級数	1	1	1	1	1	1	4	1	5
春日北	児童数	64	68	69	75	65	65	406	6	412
	学級数	2	2	2	2	2	2	12	2	14
富士南	児童数	6	8	9	17	6	15	61	1	62
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	7
富 士	児童数	13	8	16	9	14	9	69	0	69
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	0	6
北 山	児童数	6	7	7	6	3	8	37	0	37
	学級数	1	1	1	1	1	1	4	0	4
北山東部	児童数	1	4	0	1	3	2	11	0	11
	学級数	1	1	0	1	1	1	3	0	3
三 瀬	児童数	18	12	19	9	15	13	86	1	87
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	7
中川副	児童数	18	26	27	17	37	38	163	3	166
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	7
大詫間	児童数	14	12	11	13	26	18	94	1	95
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	7
南川副	児童数	57	60	59	65	69	70	380	2	382
	学級数	2	2	2	2	2	2	12	1	13
西川副	児童数	49	50	46	62	48	41	296	2	298
	学級数	2	2	2	2	2	2	12	1	13
東与賀	児童数	95	91	110	100	103	95	594	13	607
	学級数	3	3	3	3	3	3	18	3	21
思 斉	児童数	85	103	96	86	84	85	539	5	544
	学級数	3	3	3	3	3	3	18	2	20
合 計	児童数	2,141	2,175	2,295	2,265	2,241	2,303	13,420	179	13,599
	学級数	78	79	77	74	75	75	458	52	510

○児童生徒数、学級数一覧

(中学校)

平成21年5月1日現在

学校名	区分 学年	普通学級				特別支援学級	合計
		1年生	2年生	3年生	小計		
成章	生徒数	155	142	172	469	7	476
	学級数	5	4	5	14	2	16
城南	生徒数	159	172	152	483	10	493
	学級数	5	5	4	14	2	16
昭栄	生徒数	191	214	213	618	11	629
	学級数	5	6	6	17	2	19
城東	生徒数	189	194	206	589	8	597
	学級数	5	5	6	16	2	18
城西	生徒数	136	155	140	431	2	433
	学級数	4	4	4	12	1	13
城北	生徒数	214	193	187	594	7	601
	学級数	6	5	5	16	1	17
金泉	生徒数	61	88	75	224	0	224
	学級数	2	3	2	7	0	7
芙蓉	生徒数	15	23	24	62	0	62
	学級数	1	1	1	3	0	3
鍋島	生徒数	234	210	239	683	11	694
	学級数	6	6	6	18	2	20
諸富	生徒数	122	112	110	344	2	346
	学級数	4	3	3	10	1	11
大和	生徒数	200	205	209	614	9	623
	学級数	5	6	6	17	2	19
松梅	生徒数	13	8	13	34	0	34
	学級数	1	1	1	3	0	3
富士	生徒数	22	29	21	72	0	72
	学級数	1	1	1	3	0	3
北山	生徒数	8	9	11	28	1	29
	学級数	1	1	1	3	1	4
三瀬	生徒数	18	17	11	46	0	46
	学級数	1	1	1	3	0	3
川副	生徒数	129	147	157	433	2	435
	学級数	4	4	4	12	1	13
東与賀	生徒数	94	83	77	254	2	256
	学級数	3	3	2	8	1	9
思斉	生徒数	87	79	106	272	4	276
	学級数	3	2	3	8	1	9
合計	生徒数	2,047	2,080	2,123	6,250	76	6,326
	学級数	62	61	61	184	19	203

南川副	佐賀市川副町大字麓江674番地	明 9	45-0049 F34-7014	西 勝弘	382	13	1	1	0	16	1	0	0	0	2	1	0	22	1.0(1.0)	1.0	1.0(1.0)	3.0(2.0)	25.0(2.0)
西川副	佐賀市川副町大字西古賀979番地	明 8	45-0819 F34-7013	大西 邦寛	298	13	1	1	0	16	1	0	0	0	2	1	0	22	1.0(1.0)	1.0(1.0)	1.0(1.0)	3.0(3.0)	25.0(3.0)
東与賀	佐賀市東与賀町大字田中453番地	昭 22	45-0321 F45-8718	吉原 敏郎	607	21	1	1	0	25	1	0	0	1	1	1	1	31	1.0(1.0)	1.0	1.0(1.0)	6.0(2.0)	37.0(2.0)
思 斉	佐賀市久保田町大字新田1207番地	"	68-2151 F68-3667	大曲 尚美	544	20	1	1	0	24	1	0	0	1	1	1	1	30	1.0(1.0)	1.0	1.0(1.0)	7.0(3.0)	37.0(3.0)
計					13,599	510	34	36	5	635	36	1	1	1	53	40	18	859	32.0(32.0)	35.0(33.5)	32.0(32.0)	149.0(78.5)	1,083.0(78.5)

(中 学 校) () は内数、嘱託職員。(平成21年5月1日現在)

校名	住 所	設 置 年 度	電 話 番 号	校 長 名	児 童 生 数	学 級 数	費 用 員 数										市 費 職 員 数		計				
							校 長	教 頭	教 員	主 教 員	教 諭	養 護 教 諭	教 諭 助 手	養 護 教 諭 助 手	講 師	特 任 教 員	教 諭 助 手	計		事 務 員	調 理 員	事 務 員	図 書 館 職 員
成章	佐賀市成章町7番1号	昭 22	24-4265 F24-4266	石丸 和人	476	16	1	1	0	27	1	0	0	0	6	1	0	37	1.0(1.0)	1.0(1.0)	1.0(1.0)	3.0(3.0)	40.0(3.0)
城南	佐賀市南佐賀一丁目20番1号	"	24-4338 F24-4339	森山千代子	493	16	1	1	1	27	1	0	0	4	1	0	0	36	1.0(1.0)	1.0(1.0)	1.0(1.0)	3.0(3.0)	39.0(3.0)
昭 栄	佐賀市昭栄町1番7号	"	24-4238 F24-4239	岩永 和人	629	19	1	1	0	34	2	0	0	2	1	0	0	41	1.0(1.0)	1.0(1.0)	1.0(1.0)	3.0(3.0)	44.0(3.0)
城 東	佐賀市巨勢町大字牛島242番地	"	24-4286 F24-4287	宮地 洋州	597	18	1	1	1	33	1	1	0	5	1	0	0	44	1.0(1.0)	1.0(1.0)	1.0(1.0)	3.0(3.0)	47.0(3.0)
城 西	佐賀市本庄町大字本庄1021番地1	"	24-9220 F24-9219	白水 信義	433	13	1	1	0	25	1	0	0	0	1	0	0	29	1.0(1.0)	1.0(1.0)	1.0(1.0)	3.0(3.0)	32.0(3.0)
城 北	佐賀市高木瀬西三丁目1番50号	"	30-9258 F30-2360	御厨 秀樹	601	17	1	1	0	28	1	0	0	5	2	0	0	38	1.0(1.0)	1.0(1.0)	1.0(1.0)	3.0(3.0)	41.0(3.0)
金 泉	佐賀市久保泉町大字上和泉2361番地1	"	98-1181 F98-1119	中野 義文	224	7	1	1	0	12	1	0	0	2	1	0	0	18	1.0(1.0)	1.0(1.0)	1.0(1.0)	3.0(3.0)	21.0(3.0)
芙 蓉	佐賀市蓮池町大字小松1005番地1	"	97-1171 F97-1174	緒方 俊昭	62	3	1	1	0	8	1	0	0	0	1	0	0	12	0.5(0.5)	1.0	0.5(0.5)	2.0(1.0)	14.0(1.0)
鍋 島	佐賀市鍋島一丁目19番1号	"	30-5811 F30-5812	浜崎 正純	694	20	1	1	1	33	2	0	0	6	1	0	0	45	1.0(1.0)	1.0(1.0)	1.0(1.0)	3.0(3.0)	48.0(3.0)
諸 富	佐賀市諸富町大字徳富2058番地3	"	47-2331 F34-8014	高野 正司	346	11	1	1	0	21	1	0	0	0	1	1	1	26	1.0(1.0)	1.0(1.0)	1.0(1.0)	3.0(3.0)	29.0(3.0)
大 和	佐賀市大和町大字東山田3554番地1	"	62-1315 F62-0251	米澤 宣輝	623	19	1	1	1	34	1	1	0	4	1	0	0	44	1.0(1.0)	1.0(1.0)	1.0(1.0)	3.0(3.0)	47.0(3.0)
松 梅	佐賀市大和町大字松瀬2090番地1	"	63-0812 F51-0003	豊留 和則	34	3	1	1	0	6	1	0	0	1	1	0	0	11	0.5(0.5)	0.5	0.5(0.5)	1.5(1.0)	12.5(1.0)
富 士	佐賀市富士町大字古湯2735番地	"	58-2201 F58-2202	宮崎憲太郎	72	3	1	1	0	7	1	0	0	0	1	1	1	12	0.5(0.5)	1.0(1.0)	0.5(0.5)	2.0(2.0)	14.0(2.0)
北 山	佐賀市富士町大字中原342番地2	"	57-2211 F57-2212	橋本圭一郎	29	4	1	1	0	8	1	1	0	0	1	0	0	13	0.5(0.5)	0.5(0.5)	0.5(0.5)	1.5(1.5)	14.5(1.5)
三 瀬	佐賀市三瀬村三瀬2789番地	"	56-2106 F56-2003	吉川 正志	46	3	1	1	0	7	0	1	0	1	1	0	0	12	0.5(0.5)	1.0(1.0)	0.5(0.5)	2.0(2.0)	14.0(2.0)
川 副	佐賀市川副町大字麓江710番地	昭 33	45-1251 F45-3957	田中 直樹	435	13	1	1	0	25	1	0	0	3	1	0	0	32	1.0(1.0)	1.0	1.0(1.0)	3.0(2.0)	35.0(2.0)
東与賀	佐賀市東与賀町大字下古賀1127番地1	昭 33	34-7102 F45-0688	副島 和則	256	9	1	1	0	15	1	0	0	0	1	0	0	19	1.0(1.0)	1.0(1.0)	1.0(1.0)	3.0(3.0)	22.0(3.0)
思 斉	佐賀市久保田町大字新田1217番地	昭 22	68-2161 F68-2989	白仁田 茂	276	9	1	1	0	16	1	0	0	2	1	0	0	22	1.0(1.0)	1.0	1.0(1.0)	3.0(2.0)	25.0(2.0)
計					6,326	203	18	18	4	366	19	4	0	41	19	2	491	15.5(15.5)	17.0(13.5)	15.5(15.5)	48.0(44.5)	539.0(44.5)	

【学校給食センター】

名 称	住 所	市費職員数
諸 富	佐賀市諸富町大字山傾210番地2	2(0)
富 士	佐賀市富士町大字古湯2730番地	5(5)
三 瀬	佐賀市三瀬村三瀬2741番地2	2(2)
川 副	佐賀市川副町大字早津江77番地	11(11)
計		20(18)

- [注 1] 「児童・生徒数」及び「学級数」は特別支援学級を含む
[注 2] 小中一貫校の芙蓉校長、北山校長は小中兼務
[注 3] 市費：小規模校では、学校図書館職員が学校事務職員を兼務
[注 4] 市費：芙蓉校、北山校、松梅小・中学校では、事務職員・事務員は小中兼務
[注 5] 市費：職員数の()内は嘱託職員の数で内数